平成29年度　輪之内町立輪之内中学校　学校評価

学校の教育目標	**「ひとりだちのできる生徒」** **～自ら考え、正しく判断して主体的に行動する生徒～**
経営の重点	(1) 教育課程の最適化（教科等の授業時間数20～30時間増）　(2) 危機管理の徹底（いじめ・不登校解消、教育相談、組織対応） (3) 学力向上（授業改善、家庭学習の充実、個性伸長・能力開花）　(4) 情報モラル意識の向上（「輪中情報モラル宣言」の徹底） (5) 学校のスリム化（超過勤務の縮減、３Ｓ（セイフティー、スピード、スケジュール）、部活動の運営改善）

＜評価欄の記号＞Ａ：実践し、効果を上げることができた。
Ｂ：実践し、一応の効果を上げることができた。
Ｃ：実践し、僅かだが効果を上げることができた。
Ｄ：実践したが、効果を上げることができなかった。

＜保護者評価の項目について＞
ポイントが１項目に2つ以上記入されているものについては、評価の観点を細分化してそれぞれ評価した。
「評」:学校関係者評価委員会での御意見

町の重点		評価の観点	評価		今年度の成果	今後の課題と改善策
【学校経営】全教職員が協力して活力ある学校経営をする	1 ◎	**＜特色ある学校＞**　幼保・小・中の一貫性のある指導を充実させ、各学校の児童生徒や地域の特色を生かした創意ある教育課程を編成・実施する。	B	B	◎小学校の授業を年間3回参観し、発達の段階を踏まえた指導の在り方や小学校のきめ細やかな指導について学ぶことができた。 ◎「開拓タイム」を帰りの会の前に位置付け、「ひとりだちタイム」を廃止したことで、掃除時間を毎日確保できるようになり、放課後の時間を有効に活用できるようになった。授業時数確保につながった。	●学校の教育活動一つ一つについて、その意義を生徒にしっかりと理解させることで活動の充実を図りたい。 評 ☆:学校教育活動における各種報告は、きめ細かい分析がされており、たいへんよく分かった。
	2	**＜開かれた学校＞**　学校の教育方針や指導改善に向けての方針を受けた教育活動を積極的に公開し、学校評価や児童生徒の実態等を学校経営に生かし、開かれた学校づくりを推進する。	A		◎学校便りやホームページ、学年通信、学級通信、授業参観、PTAランチミーティング等を通じて、開かれた学校づくりが実践できた。 ◎保護者からの声を真摯に受け止め、学級経営や授業改善に生かすとともに、生徒に返すことで達成感を味わわせることにつながっている。 ◎町老人会ふれあいコンサートなど、新たな地域貢献活動を取り入れ、有意義な体験となった。	●フリー参観のもち方を工夫し、学校生活を保護者に見ていただける環境を一層整える。 評 ☆保護者アンケートを見ると、PTA活動においても授業参観への参加者が増えるように協力をしていく。
	3	**＜資質・指導力の向上＞**　教職員資質や指導力の向上のため、授業研究とともに、コンプライアンスについての校内研修を組織的・計画的に実施する。	B		◎全校研究会や部会研究会を積極的に行い、学び合うことができた。授業研究の時間を通して、教職員の資質向上につながった。 ◎QUテスト活用の仕方やデジタル教科書の活用、心肺蘇生法についての研修を夏休みに行ったことで、以降の実践に役立てることができた。	●校内研修が計画的かつ適時的に実施されているが、継続的な取組の必要がある。
	4	**＜危機管理＞**　児童生徒の命を守りきることを最優先に考え、全教職員が危機意識をもって一人一人の安全・安心の確保に努め、学校内外の環境を見直すとともに、家庭･地域社会･関係機関等との連携強化を図り、適切かつ確実な危機管理体制を確立する。	A		◎命を守る訓練など意図的な指導だけでなく、日常の授業や休み時間においても生徒の姿をとらえて指導を行った。 ◎負傷者の初期対応を迅速に行うように意識できた。薬物乱用防止教室や自殺予防の授業実践など、命を大切にする指導を行うことができた。	●災害時には、適切に行動できる知識や能力を鍛えるよう、全教職員が生徒の危機的状況に対応できる研修を充実させる。
	5	**＜勤務の適正化＞**　校務分掌や運営組織等を見直すなどして十分に業務のスリム化を図り、教職員の児童生徒に関わる時間を確保するとともに、教職員自身が心身共に健康で、やりがいをもって教育活動に取り組めるよう、学校経営の充実を図る。	B		◎「ノー残業デー」の徹底や部活動の負担軽減、職員会議のための短縮日課によって、勤務時間が減った。「ノー残業デー」には、19時には退校する雰囲気ができた。	●時間を有効に活用して、残業時間の削減に努めたい。例えば「ノー残業デー」の取組を通して適正な勤務体制を考えていきたい。また、会議において書面で確認できることは発言を控える。
【研修】自己の課題を明確にし，主体的に研修を進め，確かな指導力を身に付ける	6 ◎	**＜校内研修＞**　校内の主題研究を組織的・計画的に推進するとともに、教職員としての専門性や児童生徒の教育的ニーズに対応する確かな指導力を高める研修を主体的に行う。	B	B	◎校内研究会や研究推進委員会を計画的に行うとともに、他教科から指導に役立つ内容を学ぶことができた。研究会の方法もコンパクトで共動的なものとなった。	●研究会で学んだことを全教職員に発信し、同一歩調の指導改善に取り組んでいく。実践的な内容については、これからも職員が継続して研修を積んでいくようにする。
	7	**＜個人研修＞**　経験年数や職務に応じて、一人一人が個人研修課題を明確にし、具体的な目標と方策をもち、教職員としての資質や能力を高める研修に主体的に取り組む。	B		◎学習指導要領の改訂に伴って変更された指導内容を意識して実践することができた。校内研でグループ討議を設けたことで、ベテラン教員と若手教員との学び合いができた。 ◎経験年数にあった研修を通して、自己課題やキャリアプランニングを考えることができた。	●研修を通して学んだことを活かし、よりよい指導ができるように日々の実践を重ねるようにする。
	8	**＜情報研修＞**　分かる授業のためのＩＣＴの効果的な活用法及び情報モラル等、情報活用能力の向上に関わる実践的かつ効果的な研修を行う。	B		◎毎時間の授業でICTを使用し、音声教材（発音練習、リスニング等）や、視覚教材(文法や漢文などの学習、文字の書き順練習やディクテーション練習、資料提示等）で効果的に活用できた。	●教職員を対象に、情報モラルや情報管理についての研修を継続して行う。デジタル教科書の積極的な活用を図るため、指導事例に基づく研修を行う。
【教科指導】基礎的･基本的な知識･技能の習得を図るとともに，思考力･判断力･表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て，学力向上を推進する	9 ◎	**＜基礎基本の定着＞**　指導目標と評価規準を明確にした指導計画のもと、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得とそれらを活用し、思考力・判断力・表現力を育てる授業を実施する。	B	B	◎少人数指導により学力の定着を目指した。自分の考えをもつため、個人追究に力を入れた。 ◎生徒が分かった、できたと実感できる授業展開を意識して指導改善に取り組むことができた。 ◎資料等から必要な情報を抜き出し、自分の言葉でまとめる学習活動を継続した。	●単位時間のねらいを明確にし、思考力･判断力･表現力をどの場面でどのように育てていくかを、教材や発問、学習形態の視点から、教科部内でも指導方法を研修していく。
	10	**＜個に応じた指導＞**　指導内容の系統性、教科間・学校段階間のつながりを踏まえ、一人一人の学力や学習状況に応じた多様な指導方法や体制、評価を工夫改善してきめ細かな指導をし、確かな学力の定着を図り、その状況や実態を見届ける。	B		◎要支援生徒には取り出し授業を行い、習熟度に応じた指導ができた。 ◎指導計画に沿って個々に合った教材を用意して学習内容の定着を目指した。そのための見届けを継続的に行った。	●授業において何が分かったり、できたりすればよいのかを生徒に示し、課題意識がもてる事象提示や導入をさらに工夫する。 ●終末における「まとめ」の10分を大切にし、個や集団で行う評価活動を学習内容に応じて工夫改善する。 ●校務支援システムを活用し、個々の学習活動におけるよさを教職員間で共有し、言葉かけや支援に活用していく。 評 ☆少人数指導の授業参観をお願いしたい。
	11	**＜学習集団づくり＞**　互いの見方・考え方から学び合うことを通して、質の高い学びを実現する学習集団を育成するとともに、学習習慣を確立する指導を充実する。	B		◇学習習慣の定着に取り組み、特に聞く姿勢がよくなってきた。生徒会学習委員会や教科係への指導を行い、挙手の場面では全員挙手をするよう取り組んだ。 ◇単元の学習ポイントを提示して教え合う活動を位置付けることで、生徒の言葉で相手に合わせたアドバイスをすることができた。	●学び合いができる学習集団とするために、3分前学習では、全員挙手に取り組ませる。また、分からないときは仲間の意見を聞いて理解し、それをハンドサインを活用して全体に広めるようにする。 評 ☆「伝統を引継ぐ会」では、響きわたる歌声に感動した。 ☆3年生の合唱がよかった。特に、女子のソプラノの響きがたいへんすばらしかった。
【道徳教育】	12	**＜全教育活動を通した道徳教育＞**　道徳教育推進教師を中心として、道徳指導別葉を活用し、全教育活動を通して道徳教育を充実させる指導体制や指導計画を工夫改善する。	B		◎道徳の時間と学校行事を関連付けて計画的に実践してきた。発達の段階に応じて、項目を精選し、様々なふさわしい内容を実施できた。学校生活の様々な場面で、生徒に豊かな心を育むことができた。	●体育祭や輪中音楽祭に向かう取組において、道徳の時間に学習した道徳的価値を意識した言動を集団に広めるようにする。

町の重点		評価の観点	評価		今年度の成果	今後の課題と改善策
【道徳教育】自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる	13	**＜道徳の時間＞**　道徳的価値の理解を自分との関わりで考えるとともに、多様な考え方や感じ方に接して物事を多面的・多角的に考えるなど、主体的に生き方についての考えを深める道徳の時間（特別の教科道徳）を充実する。	B	B	◎道徳科への移行を踏まえ、議論する道徳を意識して授業展開を考えることができた。価値項目を意識しながら、生徒との対話を増やし、生き方指導に努めることができた。	●計画的に取り組み、生徒の道徳性を育むことができるようにしていきたい。教材研究に充てる時間を更に確保し、価値の把握が的確にできるようにしたい。
	14	**＜心を育む体験活動＞**　ふるさと教育や「あいさつ・美化・ボランティア」への取組を通して、自己を見つめ、他を思いやる指導を充実する。	B		◎黙働掃除への意識が高まっている。千本桜まつり、グランドワーク、あじさい祭りなど、地域のボランティア活動生徒が積極的に参加することができた。	●郷土愛の心情を育てるよう、道徳の時間との関連を密にしたい。 評 ☆登下校中の生徒は、挨拶を100%してくれてすばらしい。
【総合的な学習の時間】探究的な学習を通して，よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	17	**＜全体計画・指導計画＞**　小・中学校の接続や各学校の目標を踏まえ、学習のねらいや内容、各教科等との関連を一層明確にし、課題意識が連続発展するよう全体計画や指導計画を工夫改善する。	B	B	◎職場体験学習や校外学習、進路学習など、計画的に一貫性をもって実践することができた。特に、1年生では、郷土の自然環境を守り続けたいという心を育てることができた。	●小学校の全体計画を踏まえて来年度の検討を行う。宿泊研修後の活動を再考する。内容に系統性が欠けていたこともあったため、指導計画をもとに学習過程を改善する。
	18 ◎	**＜探究的な学習＞**　身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、総合的に働かせるよう、体験活動と言語活動を意図的に設定した探究活動や指導・援助を充実する。	B		◎3年生では「認知症サポーター養成講座」を行い、福祉の心をもてるように学習活動を工夫した。体験学習後は、探究心をもつことを大切にし、視点を明らかにしてまとめの活動を行った。	●日々の授業の中で探究的な活動を位置付けるとともに、教職員も探究する手段を教師も学習する。PDCAサイクルの年間計画案を検討し、発表の場を準備していく。
【特別活動】所属感を高め，よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的，実践的な態度を育てる	19	**＜指導と評価＞**　児童生徒の自発的、自治的な活動（いじめ問題への取組等）を展開し、一人一人の児童生徒が自分に自信をもち、自分のよさや可能性を発揮してよりよい生活や望ましい人間関係を築こうとすることができるよう指導と評価を一層工夫改善する。	B	B	◎活動に伴う生徒の変容等の「見届け」が確実になされていた。よりよい人間関係構築のために、PDCAサイクルができている。	●取組への思いを仲間に伝えることに自信がもてず、思いを伝えられないことがある。今後は取組を通して、自分自身や集団への自信も身に付けさせたい。 評 ☆「伝統を引継ぐ会」の姿は、たいへん規律がありよい。行事を通じて、心を伝えるとともに心を育てていることがよく分かった。 ☆学校行事に参加して感じたことは、立派の一言に尽きる。
	20 ◎	**＜学級経営＞**　学級の諸問題を解決する活動を通して、望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育て、学級経営を充実する。	B		◎日常的なに、リーダーとフォロアーの呼応関係のよさについて広め、価値付けることができた。学級内の所属感や自己肯定感を高める指導ができた。	●自分に自信のある生徒がさらに増えるように、様々な取組を通して関わり合いを増やしていく。毎日の輝き見つけを充実させていく。 ●その場で必要な指導をしっかりと見極め、生徒に目を配ることを継続していく。 評 ☆伝統を引継ぐ会の中で全く私語がなく移動する姿や取り組む姿はたいへんすばらしい。 ☆落ち着いており、崇高さを感じた。
【生徒指導】共感的な理解に徹し，望ましい人間県警を築く力と自己指導能力を育てる	21 ◎	**＜生徒指導（教育相談）体制＞**　不登校や問題行動（いじめ、暴力行為、薬物乱用、性非行、インターネットを利用した誹謗中傷や違法行為等）については、全職員が危機意識をもち、早期発見・早期対応はもとより未然防止に重点的に取り組み、家庭や地域・関係諸機関等との情報共有と行動連携を強化し、組織的に対応する。	A	B	◎問題行動には、教職員間で連携をとり、解決に取り組んだ。必要に応じてケース会議を開き、共通理解に徹している。 ◎「心のアンケート」を定期的に行い、生徒と対話をすることで、迅速に一人一人の悩みや不安に対応することができた。 ◎SNS等によるトラブルについて、生徒から情報が入ることが多くあり、自分たちの問題として捉えようとする意識が育ってきた。	●今後も、生徒の心の変化をアンテナを高くして見届けていく。早期発見や早期対応ができるよう、「心のアンケート」の活用をさらに大切にしていく。 ●情報モラルに関する問題は見えにくいため、日頃から情報機器の正しい使い方を確認する必要がある。
	22	**＜学年・学級経営＞**　一人一人が個性を発揮し、存在感・所属感・達成感を味わい、望ましい人間関係を築くことができるよう、児童生徒の関わり合いを大切にした学年・学級経営と授業を全校体制の指導により充実する。	B		◎学級担任が日常的に、一人一人の仲間に関わる姿を取り上げ、各活動にやりがいを感じながら生活できるようにしてきた。「輝き見つけ」が、仲間のよさを認める温かい人間関係の形成に繋がっていた。	●所属感や達成感を味わえるよう、日頃の生活で具体的に目標設定をして取り組んでいく。学年集会は、自己肯定感を高める支援となるよう、よいことを広めるために開くようにする。
	23	**＜生命尊重・倫理観・規範意識＞**　全教育活動を通して、一人一人が自他の生命を尊重し、倫理観や規範意識を向上させることができるよう指導を徹底する。	B		◎生徒一人一人の実情に配慮した取組がなされるような指導が徹底されている。	●規範意識が高まるよう粘り強く声をかけ、指導を続けていく。言葉遣いや生活態度がさらによくなるように、教師が手本となって生徒との関わりを増やしていく。
【進路指導】自己の生き方を考え，主体的に進路を選択できる能力や態度を育てる	24 ◎	**＜勤労観・職業観＞**　望ましい勤労観・職業観が育つよう、他の教育活動との関連を図り、ねらいを明確にした体験活動（職場体験、係活動、清掃・奉仕活動など）を位置づけるとともに、事前や事後の指導を充実する。	B	B	◎進路指導資料「生きる」を活用して、職業調べを行い、自分の将来に対する見通しをもつように指導してきた。 ◎黙働清掃を通してひたむきに取り組むことの価値を理解させることにつながっている。 ◎職場体験活動を通して、働くことの楽しさや難しさを学ばせることができた。	●2年生の職場体験では、担任が生徒一人一人の勤労観について把握する必要がある。2学期できていた掃除の姿を、3学期もそのまま継続できるよう指導していく。
	25	**＜ガイダンス＞**　一人一人が自己の能力・適性や多様な可能性を理解し、将来の夢や希望の実現に向けて自分のよさを生かし主体的に進路選択ができるよう、個に応じた正確な情報提供や説明及びそれらに基づいた学習等のガイダンスの機能を充実する。（中）	B		◎三者懇談前に二者懇談を行い、一人一人の希望や適性について助言できた。 ◎資料「進路クラブ」の適性診断を行い、自己分析する中で将来の職業について考えることができた。 ◎一人一人に適した進路選択ができるよう進路のガイダンスの充実に力を入れた。	●学級活動の時間に、「生きる」を計画的に位置付けて活用する必要がある。自分の夢について語り合える仲間づくりや学級づくりを目指したい。
【健康教育】運動に親しみ，進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる	26 ◎	**＜保健・安全・食＞**　児童生徒の体力・運動能力、食生活等の生活習慣、心身の健康状態及び安全に対する意識・行動を的確に把握するとともに、他の教育活動との関連を踏まえて「健康・安全・食」に関する指導を工夫改善する。	B	B	◎完全配食を目指した取り組みによって、残食がほとんどなかった。また、一人一人には好き嫌いなく食べるように指導してきた。 ◎生活習慣のアンケートや生徒会健康委員会の活動やPTAによる親子レシピ、ランチミーティング等の活動により、食を通した健康教育への意識が高まった。 ◎保健体育の授業を通して、運動や食事、休養の大切さを指導することができた。	●他の教育活動との関連など、意識して取り組めていない。 ●牛乳を仲間に譲ることがあるなど、帰りの会等で指導を行い、給食のルールを徹底する。
	27	**＜運動推進＞**　児童生徒が課題や願いをもって積極的に体力づくりに取り組み、日常的な運動実践の場や機会を充実する。	B		◎保健体育の授業や部活動が充実し、運動実践の場が保障されている。特に授業では、3分前学習を通して体力向上に努めてきた。 ◎昼休みの体育館開放ではバスケットボールやバレーボール、運動場ではサッカーを行うなど、体力の向上に役立っており、今後も続けていきたい。	●部活動については、国及び県の方針に基づいて持続可能な運営、指導体制の構築に向けて改善を図っていく。
	28	**＜未然防止＞**　児童生徒の健康・安全を守りきるために、学校と家庭、地域社会が連携した組織体としての総合的な力を発揮し、健康被害等の未然防止に万全を期す。	B		◎子ども相談センター等の関係機関と連携を図りつつ、薬物乱用や感染症予防など未然防止に取り組めている。	●健康被害等の未然防止に向け危険を予測し、すぐに対応できる能力を高める。「廊下は走らない」など、生活のルールを徹底していく。
【特別支援教育】一人一人の教育的ニーズに応じ，自立し社会参加するため	29	**＜校内支援体制＞**　特別支援教育コーディネーターを中心として、こども園や関係機関との連携を図りながら、ケース会議等で児童生徒理解を図り、一人一人の教育的ニーズを正しく理解して、全教職員が組織的に合理的配慮の一層の充実に努める。	B	B	◎特別支援教育について校内研修を通して合理的配慮について学び合うとともに、一人一人に必要な合理的配慮において具体化し、全体で共有しながら活動することができた。	●合理的配慮の更なる充実を図りたい。校内外の関係者間でコミュニケーションを図っていく。
	30 ◎	**＜個別の支援＞**　本人・保護者との合意形成及び関係機関との連携の下、合理的配慮の継続的な提供及び定期的な見直しができるよう「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を活用し、一貫した支援を行う中で、一人一人が能力や特性を発揮し、主体的に活動できるよう指導内容や指導方法、評価を工夫改善する。	B		◎本人及び保護者の意向を踏まえて、生徒の能力や特性に配慮した指導がなされていた。特に学習支援については、個の状況に応じた配慮に努めた。	●生徒を共感的な理解し、よりよい指導を進めるために工夫改善を進める。

町の重点	評価の観点		評価		今年度の成果	今後の課題と改善策
学ぶための基盤となる力を育てる	31	**＜交流及び共同学習＞**　特別支援学級等と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習を計画的・継続的に行い、社会性や豊かな人間性を育むことができるよう指導を充実する。	B		◎共同学習については、体育祭と輪中音楽祭の活動を通して交流学級の仲間とよりよく活動するための事前指導と、価値付けを中心とした事後指導を通して、温かい人間関係づくりに努めた。	●今後も交流学級と特別支援学級との連携を図っていく。本人だけではなく、関わるすべての人の人間性を高めるよう指導を充実させなければいけない。
【人権教育】不合理な差別をなくし，人権を尊重する温かい人間関係を醸成する	32	**＜望ましい人間関係＞**　互いのよさを認め合い、温かく思いやりのある望ましい人間関係を醸成する指導を工夫改善する。	B	B	◎互いを「さん」付けで呼び合うなど、望ましい人間関係の醸成に取り組めている。 ◎「ひびきあいの日」に向けて「ちょっといい話」を放送で紹介したり、日頃の輝きみつけで仲間のよさを認め合う機会を設けたりすることができた。 ◎今年度は「ひびあい賞」を受賞することができ、学校全体の取組が認められた。	●毎日の「輝きみつけ」の内容を、生徒の考えや思いも入るものにしていきたい。 ●校務支援システムを活用し、生徒のよさを職員間でも交流し、内容を参考に担任はその価値を学級に紹介していく。 ●平成30年・31年「人権教育推進校」（文部科学省）として、更なる人権教育推進に取り組む。
	33 ◎	**＜いじめ・差別の根絶＞**　いじめや差別を許さない学校・学級づくりに徹し、全校が一丸となった取組を継続的に行う。	B		◎学校全体が一つになって取り組めていると強く感じる。担任が生徒一人一人の言動にアンテナを高く張り、差別的な言動にはすぐに指導することができた。 ◎「心のアンケート」を有効に活用し、困り感を抱えた生徒から話を聞いたり、問題を少しずつ解決する方向へ運ぶことができた。	●生徒の育ちについて職員室内での情報交換を継続していく。 ●アンケートを行った後、生徒とゆっくりと話せる時間を確保する。 ●「ひびきあいの日」を見据えた、年間の計画的な道徳の授業の位置付けを行い、校内放送やPTA活動等を通して啓発活動を今後も行っていく。
【情報教育・図書館教育】 ・児童生徒の情報モラルを高め，情報化社会に対応できる情報活用能力を育てる ・日常的に読書に親しみ，教養・価値観・感性を高めようとする態度を育てる	34	**＜情報活用能力＞**　情報活用能力における児童生徒の実態を把握し、段階表に基づいた系統的な指導をする。	B	B	◎全教職員がデジタル教科書を利活用するよう啓発してきた。授業で活用することで学習内容の理解を充実させることができた。	●一人一人の実態把握に取り組む。定期的にアンケートを実施し、情報活用やモラルの指導に生かしたい。
	35 ◎	**＜情報モラル＞**　情報モラル（SNSを介したネットトラブル等）について、意図的・効果的な指導を行う。	B		◎「輪之内町情報モラル宣言」が策定され、生徒による自治的な活動を通して啓発を行うことができた。生徒から書き込み等の情報が入り、すぐに対応することができ、書き込みをやめさせることができた。	●情報モラルに関する問題は見えにくいので、日頃から正しい使い方などを確認することとともに、今後は更なる意図的・効果的な指導の充実を図る必要もある。 評 ☆「輪之内町情報モラル宣言」が策定されたことを踏まえて、インターネット等のSNSに関する研修の充実を図ってもらいたい。 ☆外部の組織を活用してインターネット等のSNSに関する研修を通じて、指導していってほしい。
	36	**＜図書館教育＞**　学校図書館を利用しやすく整備し、図書の計画的利活用や読書活動の推進に取り組む。	B		◎町学校図書館司書を中心に、図書館の計画的な利用活動や読書活動の充実が図られている。 ◎生徒会図書委員の活動により貸出し冊数が昨年度より増え、昼休みの図書室利用者も増えた。	●利用のマナーで気になる点（返却期日の徹底、図書室での過ごし方など）が目立ってきた。誰もが気持ちよく利用できる図書室にするために、利用のマナーを向上させるための活動をより活発にしていきたい。 ●週１回の「読書タイム」をできるだけ確保し、内容の充実に努める。
【ふるさと教育】 「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し，誇りに思う心を育てる	37 ◎	**＜ふるさと学習＞**　地域を知り、理解するための活動や地域人材を活用した授業を展開するなど、地域に根ざしたふるさと学習を積極的に推進する。	B	B	◎環境学習や職場体験学習、ボランティア活動等を通して、生徒自らが地域を知り、理解することができた。地域の中の中学校として、地域との連携を図り、地域から学ぶ学習が推進されている。	●教職員の地域への理解をさらに深めるようにしたい。 評 ●登下校において交通ルールをよく守って登下校している。 ●学校から遠く離れると、時々並進を見かけることがあるので注意してもらいたい。 ●輪之内新春マラソンでは、率先してプラカードを持ってくれる姿やプラカードにしたがって真っ直ぐ並ぶ姿はありがたい。
	38	**＜国際交流＞**　国際交流などを通して、グローバル化に対応した豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化を理解する力等を身に付けられるようにする。	B		◎ALTが全学級の英語の授業に配置でき、語学力やコミュニケーション能力のの向上が図られている。 ◎英検の受験を促し、今年度は英検で3級以上を取得した生徒が30人になった。	●スピーチコンテストやプロモーションコンテストへの参加を通して、英語で情報を発信することができる力を高めていく。英語による昼の放送を取り入れたい。
【防災教育】自らの命を守るための防災意識の向上を図る	39	**＜防災教育推進＞**　学校防災マニュアル等について、学校や地域社会の実態を踏まえた改善を行うとともに、マニュアルに基づく訓練や校内研修会を実施するなど、安全管理体制と一体化した防災教育を推進する。	B	B	◎全国瞬時警報システム（Jアラート）が発信された場合を想定した初めての避難訓練を行い、避難の仕方や安全な対処方法を確認することができた。 ◎命を守る訓練を通して、災害が起きた後の対応や事前にできることなどを学び、安全への意識を高めることができた。	●Jアラートの対応については、直接的な訓練を行うなどして、実践力を高める。
【家庭学習の充実】自分の力で学習ができる児童生徒を育てる	40	**＜家庭学習習慣＞**　家庭学習の手引きを活用し、望ましい家庭学習の習慣の定着を図る。	B	B	◎生徒会学習委員会がよい自主学習ノートの例を帰りの会で発表するなどしたことで質の高い自主学習が増えてきた。自主学習ノートの点検を通して、互いの学習への姿勢に刺激が与えられた。	●生徒の家庭学習の方法など確かめ、改善できるよう、教科ごとの手引きの充実やガイダンスの場、時間確保する。 ●自主学習ノートの全員提出が徹底されるよう、家庭学習の方法を紹介しながら取り組むことができるようにする。